

第6回伊予市図書館、文化ホール等管理運営検討委員会 会議概要

日 時：平成 28 年 3 月 9 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：伊予市中央公民館 2 階 第 1 会議室

出席者：検討委員会委員 14 名、事務局 6 名、委託業者 3 名

1. 開会

- ・ 開会のあいさつ（事務局）
- ・ 委員長あいさつ（委員長）

2. 議題

(1) 合同分科会の報告及び検討委員会としての取りまとめ

合同分科会の報告/討委員会としての取りまとめ(委託業者)

- ・ 諸室の名称について協議した内容を説明。
最終的には条例上の規定や、呼びやすさを検討し、市で決定する。
- ・ 検討委員会としての取りまとめについて資料の説明。(委託業者)

- ・ 議事の流れとしては (3) 平成 27 年度検討内容のとりまとめについて、まで含んでいる。これは管理運営計画の骨子になる。ここまでの内容についてご意見を頂きたい。(委員長)

- ・ この資料においては、検討委員会でたびたび訴えてきたことが記載されていない。中央公民館は 4 月に閉館するが、中央公民館と郡中公民館について今後どうするか方針の説明が全くない。「移転計画」として記載したらどうか、というお話が前回委員会であったと記憶している。公民館として「使える」という確定があったことも記載していない。もう一つ、公民館として新しい施設を使えるとなった場合、使用料金のことが記載されていない。地区の団体はすべてボランティアで活動しているため、使用料金がかかると大変困る。例えば扶桑太鼓については、公民館がなくなればどこで活動したら良いか、練習場所がない。また代替施設の利用についても記載がない。またあらゆる媒体で説明すると行政から聞いていたが、広報紙にも全く記載がない。さざなみ館を使ったらどうかという話もあった。埋め立て事業時、市長と交わした覚書には「地域の利用者に対して弾力的な協力を行う」という文言がある。今回その方針を変えらるとなると、覚書に反するのではないか。営利目的の利用であれば料金をとっても良いが、ボランティア団体から徴収すれば、活動

が立ち行かなくなる。活動しやすいようにして頂きたい。公民館がなくなったから他の施設に移っているのに、料金をとられるのはおかしいと感じる。「地域交流事業」に公民館活動の文言を入れるべきと考える。(委員)

- 資料 8 ページの「地域交流事業」、上から 2 つ目の「幼児や児童、育児、親子、高齢者などを対象とした講座、教室、大会、スポーツ、ワークショップ」に含まれているのではないか。(委託業者)
- この書き方だと意図的に公民館ということが隠されているように感じる。「公民館事業」と記載してほしい。(委員)
- この表には事業の中身を書いているため、どのような記載にしたら良いかご教示いただきたい。(委託業者)
- 「集会」という記載を追記してほしい。例えば町内会の会合などがある。文化ホールなので文化団体だけが使える、ということではなく、従来通りの使い方が出来るということを記載してほしい。使い方、および料金の減免については明記してほしい。(委員)
- 公民館活動は行えることはたびたび確認済みであり、問題ない。地域の街づくりに関するミーティング＝「集会」について追記する。料金については当委員会での決裁が出来ない。市の方針と事務局の判断をもって、再議論することになる。施設が取り壊されて次の施設が出来るまでの約 2 年半、どれくらい施設が足りなくなるか、把握はしきれていない。この委員会の直接の議題ではないが、出来るだけ早急に、具体的なご対応を頂きたい、という再度の要望を委員会として行う。(委員長)
- ・ 文化協会では、現在各団体が施設をどのように利用しており、どのような要望があるかの調査を 2 回ほど行い、大方終了している。実際の運用に入ると、ふるさと創生館はかなりタイトになるだろうと想定している。卓球など運動を行ってきた人たちをどうするのか等、早急なご対応を頂きたい。(委員)
- 委員会として公民館協議会、市の社会教育委員会で協議対応頂きたい、という要望を出すことにする。(委員長)
- ・ 委員から広報についてのご指摘があったかと思う。(委員長)
- 手元に広報があるが、公民館はホールになります、活動していた団体はどうなります、という周知を行うことが親切な対応だと考える。今回の広報紙にはどこにも公民館についての記載がない。「使えません」という記載だけである。また事業について、予算はどうなっているのか。事業は市民が手弁当で行うということか。予算についての説明がなされていない。事業計画をたてても、計画倒れになるのではないかと懸念している。(委員)
- 我々も予算のことを懸念している。運営・事業について参考の数字も含めて市に提示しているが、返答がない。23 日のフォーラムでは回答を頂かないと、先に進

めない。その最もたるものが運営主体で、直営か、指定管理かということである。これを決められないとプランも費用も出すことが出来ない。委員会としてはまず 23 日の回答をお待ちすることとする。また広報紙については事務局から送って頂きたい。文化施設に関する広報が十分でないというご意見は委員会でも出ている。文化団体や利用者も同じように、新しい施設を今まで通り使えるのか分からないという不満を抱えていることが考えられる。広報について当委員会には権限がないため、引き続き広報を実施頂くようお願いをすることになる。まだまだ広報は足りていないと感じている。以前委員からも、新しい施設に対して期待と不安がある、という話が挙がっていた。現在は不確定要素が多いが、徐々に不安を払拭していきたい。(委員長)

- フォーラムでどの程度の回答が頂けるものか、懸念している。一方でタイムスケジュールは本日も配布されている通り、明示されている。我々委員会はこのスケジュールに基づいて進めていかねばならない。平成 30 年 11 月の開館は定められている。来年度にきちんとした準備室がなければ、市民からの質問すらどこに行けば良いか分からない。平成 28 年度については 3 月末にはっきりと方針を受けると考えている。2 年経ったらオープンしなくてはならないのだと再度認識し、行政の責任としてここまでは言える、という内容の回答をお願いしたい。(委員 1)
- ウェルピア伊予の無料使用、を資料 11 ページに記載頂いている。指定管理運営とはいえ、市の施設である。緊急措置として保健センターや郡中ふれあい館の開放や土日開館など、他の施設に行かざるをえない状況の中で、2 年間の方針を配慮をもって市で決めて頂きたい。ぜひ真剣に検討を頂き、無料で使えるようにして頂きたい。(委員 2)
- 料金は当委員会で決定できないが、代替施設についてぜひ柔軟に使いやすいようご検討を頂きたい。(委員長)
- ・ 問合せ窓口の公示、振り分けを市できちんと行ってほしい。それぞれの団体で探していると、場所が見つからないために活動停止になってしまうことが考えられる。(委員)
- ひとつの窓口で情報が分かるようにして頂きたい。以前からお願いしているが、引き続き要望していく。(委員長)
- 教育委員会で問合せ窓口一本化についての話をしたが、「できない」と回答された。庁内各課の間で連携が出来ていないのではないか。「できない」という回答では大変困るので、なんとかご対応頂きたい。(委員 1)
- 例えば公共施設をインターネットで予約が出来る場合は、その時点で窓口一本化される。以前からその提案を行っている。ぜひご検討頂きたい。(委員長)
- 開設準備室を早急に作って、そこが窓口になって管理して頂きたい。2 年半かか

って準備をしていく期間で、問合せを一か所に集中しなければいけない。(委員2)

- 開設準備室の立ち上げを理事者に切にお願いはした。良い結論でなければ、再度お願いをするつもりでいる。(委員長)
- ・ 議事に沿って、市の計画に立ち戻ってみると「貸館窓口の一本化」、「全市的な施設予約システム」という記載がある。書いてあることは実施して頂かなくてはならない。また配布資料の裏面には、事業イメージへの追加検討事項を記載した。分科会の内容が一部入っていない。そして文化ホールはステージ部分をいかに使うか、ということが大切である。扶桑太鼓や吟詠の練習にも使っていきたい。また市民参画案も記載した。プレイベントとして子供たちが参加して記念プレートをつけるなど、建物が自分たちのものだという意識づけが出来るイベントを入れておきたい。植栽などの周辺整備についてもワークショップを交えてやっていくような形にしたい。単なるお祭りごとではなく、市民に対する意識づけをしたい。(委員)
- 分科会のまとめとしてこぼれた内容があったので、事務局で再作成すること。今後計画の骨子になっていくことを前提とするので手を入れたい。プレイベントも同様だが、施工ワークショップのようなイメージになるか。(委員長)
- そういう形で実施する方が良いと考える。具体的なイメージがわいてくる内容としたい。(委員)
- ・ 事業イメージに「巡回図書・移動図書、それぞれの仕組みを考えること」、「地域の図書室の有効活用に関する協議」を入れたい。(委員)
- 地域の図書室の所管はどこになるか。(委員長)
- 地域事務所である。(事務局)
- この新しい施設が中央図書館として、他図書館の状況を把握していくということになる。(委員長)
- 3月14日の図書協議会で同じ内容を頂いていた。議題としても挙げているので、ぜひご提案頂きたい。(事務局)
- 頂いた内容を事業イメージに追加する。図書館のアウトリーチと、伊予市の地域のネットワークをしっかりとしておくということになる。(委員長)
- ・ 事業のアイデアについては時間もかけてきた。内容は出尽くしていると考えている。次は実際に動いていく段階である。役割分担など、具体的なことをしていかななくてはならない。(委員)
- 委員会で極力具体的にイメージできるように進めてきたが、まだラフイメージの段階である。来年度は具体的な組織やチームを作って動いて頂く段階になる。(委員長)
- 時期として早すぎることはないと考えている。(委員)

- おっしゃる通りで、4月からの実施でぎりぎりだと感じる。委員会で出来ることは要望をまとめて事務局に伝えることだった。次は事務局で具体的に検討頂くことになる。委員会としては委員が核になって積極的に人を集めて、実施して、委員会にフィードバックして頂くことになる。(委員長)
- ・ 委員の資料についてだが、伊予市に文化資源はないのではないだろうか。合併協定書に文化資源についての記載があるが、機能していないと感じる。ホームページに記載されていた文言も突然削除された。その経緯を鑑み、このプランも絵に描いたモチになってしまうのではないかと思う。(委員)
- 委員から話があったのは、歴史都市構想、歴史予算の財源的裏付けデータのことである。平成 28 年度は計画から消えていた。意見公募手続きを利用して問合せをし、回答も頂いている。「この年度の中で財源を使うのは難しい」「都市再生整備計画に入れるかどうかを含めて検討する」という回答で、載せる、という明確な回答ではなかった。財源の問題は確認中の状態である。今後回答が出てくる。(委員 1)
- 当初のコンセプトは「大きくはない施設をまちなかに」、設計案選定の理由も、「まちなかににぎわいを」だった。この郡中地区の中心市街地をより豊かにするという目的がある。委員お二人の意見を受け止めて、しっかりと各件のご回答を頂きたい。(委員長)
- 合併の際に税金で土地を購入したが、駐車場になった。目的外だろうと考えている。今回の計画でも方針変更があればそれを説明してほしいと考えている。(委員 2)
- 平成 27 年度の振り返りをじっくりと行った。今後皆様に頂いたご意見を元に、骨子をまとめていく。(委員長)

(2)平成 28 年度検討内容について

- ・ 事務局より資料説明。
分科会の深化と、どのように実践に移るか、についての想定を説明。
- ・ 運営に対する懸念が 3 月末までに解決するかどうかは別として、開館のタイミングはすでに決定している。実働できることは行いながら、要望を出していくことになる。(委員長)
- 懸念内容は教育委員会から市長へはっきりと伝えて頂きたい。あくまで市長の判断ありきで動くことになる。(委員 1)
- 何度もご要望を頂いている中、力及ばず申し訳ない。継続して市長にも皆様のご意見を訴え続けていく。(委員長)
- 議会でも今回の懸念事項を課長が発言されている。市長の所信表明に入っているのだから、「こうする」という言葉を頂ければよいと考えている。(委員 2)

(3) 市民フォーラムについて

- ・ 配布のフォーラムチラシについて、事務局より説明。
- ・ NPO として図書館運営に大変苦勞されてきた方。ぜひ足を運んでください。(委員長)

(4) その他

- ・ せっかくなのでご発言のない方にそれぞれお話を伺いたい。(委員長)
- ・ 伊予市らしさを守っていくために、まさに今活動しなくてはいけないと感じた。自分たちだけでなく市全体で活動を継続していけるようにしていかななくてはならないと考える。(委員1)
- 来年度の大きな課題と考えている。(委員長)
- ・ 文化協会は動き出しが早く、それぞれに困っていることを話すことが出来たため、対策も進んだ。既存公民館・集会所職員にはこの危機感が伝わっていないと感じている。スタッフは育ってきていると感じるので、市民も頑張らなくてはならない。文化協会団体の近隣集会所等利用は、無料にできるようならば無料が良い。今まで通り、何週目の何曜日など固定した日程で活動していくことが出来るのか、不安は感じている。同時に有料であっても新しいところで活動できたら、という希望も持っている。(委員2)
- ・ 事業の中に「ミニ集会」という言葉を入れたら良いのではないかと感じた。中山地区も双海地区ももっと共に活動できたらいいなと思っている。行政側には各課同士のつながり、情報交換会など話し合いをもって頂きたいと思う。(委員3)
- 色々なところで課の断絶があるように感じる。誰のため、何のため、どんな目的で、ということ共有していくことが必要だと感じる。(委員4)
- 文化交流施設を作っていくプロセスは、最も市民参画しやすい。全市が集まっての施設になることを切に願っている。(委員長)
- ・ 人材を集めてやっていくのだということを再確認した。学校との協働も行うのだと認識した。(委員5)
- 学校との協働は文化施設にとってハードルが高い。具体的にしていくために、ぜひお力添えを頂きたい。(委員長)
- ・ 委員からあった通り、各団体の活動にお力添えを頂きたい。扶桑太鼓は伊予市施設以外でも、県外を含め多くの活動を行っている。郡中地区の子供たちが8割いる。子供のチームは15あるが、大人は13名しかいない。子供の頃に行っているのは5名だけである。地域に根差した保存継承を行うことを、新しい施設の命題としたい。(委員6)
- ・ 自分にどういったことが出来るのか分からない。もっと役に立てたらいいなと思っ

ている。(委員7)

- ・ 市民に愛着をもってもらうために、何が出来るかが大切である。(副委員長)
- 愛称決定など、これからもチャンスは多くある。繰り返し広報をして広めていき、多くの参加を募りたい。(委員長)
- ・ 市民参画の受け皿を作りながら、進めていきます。来年度も皆様宜しく願いたします。(事務局)
- ・ 一年間ありがとうございました。引き続き、宜しく願いたします。(委員長)

3. 閉会

以 上